

まちづくり協議会との『景観計画』策定に向けた 情報交換について（報告）

湖南省が景観計画を策定するに当たり、各地域のまちづくり協議会とも連携を図り、今後の良好な景観形成に取り組んでいくため、以下のとおり情報交換を行った。

1. 概要

今回の情報交換は、まちづくり協議会の役員を中心に、別紙の次第に基づいて以下のとおり実施した。

名 称	開催日	場 所	参加人数
三雲まちづくり協議会	12/11（火）	柑子袋まちづくりセンター	4人
石部まちづくり協議会	12/17（月）	石部まちづくりセンター	3人
石部南まちづくり協議会	12/5（水）	石部南まちづくりセンター	10人
岩根まちづくり協議会	12/11（火）	岩根まちづくりセンター	5人
菩提寺まちづくり協議会	12/20（木）	菩提寺まちづくりセンター	4人
下田まちづくり協議会	12/13（木）	下田まちづくりセンター	4人
水戸まちづくり協議会	12/12（水）	水戸まちづくりセンター	5人

（※参加人数：まちづくり協議会から参加された人の数）

2. まちづくり協議会の意見

（1）各地区における景観づくりに関する取り組みについて

- ・多くの地区で、清掃や草刈り、花植えなどの美化活動に取り組まれている。
- ・歴史のある地区では名所旧跡の掘り起こし、比較的新しい団地などを主体とした地区ではイルミネーションなどにも取り組まれている。
- ・「きらめき湖南プロジェクト」の制度を有効に活用されている。

○個別意見

- ・地域の資源を守る意識が高く、環境美化などに熱心に取り組んでいる。（岩根）
- ・景観づくりには予算的な問題もある。きらめき湖南プロジェクトの事業と関連することに取り組んでいきたい。（岩根）
- ・小学校の裏手、善水寺に上がっていく道でホテルの育成事業に取り組んでいる。（岩根）
- ・従来の活動の他に下田の特産品開発などにも取り組んでいる。また、空き店舗を「時空のふれあい館」として活用するため、滋賀県立大学の環境建築デザイン

ン課の学生と連携し、事業コンペを開催した。(下田)

- ・地域景観を良くするために、冬にはイルミネーションにも取り組んでいる。(水戸)
- ・愛宕神社とその周辺の景観の掘り起こしを行っている。行燈を300基ほど作った。来年は、愛宕神社の位置を示したマップを作製し、スタンプラリーを実施して盛り上げることを考えている。(石部)
- ・埋もれた名所旧跡を掘り起こし、看板を掲げることに取り組んでいる。その一つが畠山兄弟の仇討の場所。石部西の公園に墓がある。(石部)
- ・聖物の代名詞「石部金吉」でまちおこしをしている。また、ゆるキャラとして「いしべえどん」によるまちおこしにも取り組んでいる。(石部)
- ・まちづくり協議会では、少菩提寺の遺跡の整備に取り組んでいる。(菩提寺)
- ・大山川の土手は、イワタニランドの自治会が草刈りなどを行い、特にきれいにしている。(菩提寺)
- ・きらめき湖南プロジェクトで竹のスタンドづくりに取り組んでいる。(菩提寺)
- ・菩提寺区が実施している交差点の花植えを見ると、ほっと気持ちが安らぐ。その活動には、県の助成もある。(菩提寺)

(2) 地区における景観に関する現状、課題について

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・各地区の景観資源について、市民アンケートなどで高く評価されていることがわかると、その地域に暮らす住人としての誇りや自負につながる。・多くの地区で、公園や河川の管理が課題となっている。 |
|---|

○個別意見

- ・アンケートは広く市民から意見を聞いているものであり、未来に守り、伝えたい景観として善水寺が挙げられていることは誇りに思うべきである。(岩根)
- ・まちづくり協議会は、自治会などと違ってできることに限りがある。まちづくり協議会独自で進めることは組織的に難しい。(三雲)
- ・アンケートで今まであまり景観づくりの活動をしていないという結果が出ているのは、広報不足な点があったということであり、残念である。(三雲)
- ・昔はにごり池がもっときれいだったと思う。管理の問題だと思う。(下田)
- ・にごり池公園がゴミ捨て場ようになっており、草も伸びている。もっと管理すべきである。きれいにすればゴミを捨てる人もいなくなると思う。工業団地など、周辺に立地している企業にも管理の面で協力を得ることはできないだろうか。(水戸)
- ・茶釜川は、地域でも掃除をしているが汚れがひどい。桜の時期はきれいなので自治会では提灯をつけるなど考えている。すぐに草が生い茂るため、草が生えないような整備ができないだろうか。(水戸)

- ・小学6年生との意見交換会で、「草が伸びていたり、犬のフンが多くて公園で遊べない」との訴えがあった。(水戸)
- ・十二坊の山頂部分から見下ろす景観は素晴らしい。今は道が閉鎖されているし、トイレも閉まっていて使用できない状態である。ハイキングコースとしてきちんと環境整備することが重要ではないだろうか。(水戸)
- ・水戸地区は、新興住宅の団地であり、景観を意識する箇所があまりない。河川的美観維持くらいしかないと思う。(水戸)
- ・人が住んでいない社宅がまとまってあり、近寄りがたく、とても物騒、不安である。何とかして活用の働きかけができないだろうか。新たに開発をしないでも、既存の空き家を活用すれば良いのではないだろうか。(水戸)
- ・地域コミュニティがしっかりしていれば、ある程度住みやすい地域となるのではないだろうか。(水戸)
- ・最近になって開発された場所では、子どももいる若い世帯がまとまって入居しているが、早い段階で開発されたところは、その後に若い人が入っていないので高齢化が進んでいる。(水戸)
- ・石部地区では景観づくりが遅れているのではないだろうか。新しい家への建替えが進んでいる。関や土山は古い町並みが残っている。少し手遅れの感がある。本陣などの歴史的な建築物も失われている。(石部)
- ・アンケート結果からも多くの市民が石部宿の景観を残すべきと感じているのだから、過ぎたことを嘆いているだけではいけない。(石部)
- ・東海道には、日曜日などにたくさんの方が訪れている。(石部)
- ・古い道具などを沢山持っている家も多い。倉庫などに片づけられたままになっている。景観と言うと屋外から見えるものに限られてしまうのかもしれないが、そういった古い道具などを、建物の中で展示してもらうことはできる。通りから見えるところで展示してもらうことは可能と考える。(石部)
- ・東海道沿いで最近建て替えられた家の中には、昔ながらの出格子をアルミサッシの上に被せるなど、景観に配慮している人もいる。(石部)

(3) 景観づくりの方向性について

- ・広く地域住民の中に景観へ配慮する気持ちが浸透することが重要だと考えられている。
- ・現段階では、積極的に重点地区の指定に手を挙げていこうと考える地区は見受けられない。

○個別意見

- ・鉢植えをしたり、ゴミ拾いをするなどの地域住民の景観に配慮した活動の促進を大事にすべきであり、規制を掛けることが目的となつてはいけない。(石部南)

- ・甲賀には街並みが整備され、電柱が撤去されているところも見受けられる。湖南市では、どこを重点的に進めていくのか。岩根としては善水寺をもっと知っていただいて、たくさんの方に来ていただきたいという夢を持っている。(岩根)
- ・バイパス沿いの広告物の乱立はどうにかならないだろうか。地権者との約束を守らない悪質な業者もいる。(岩根)
- ・三雲学区で重点地区をつくらなければならないような区域はあるのだろうか。景観とは違うが、むしろ新しい住宅地を整備して細街路を広げるなど、安心・安全を高めることが重要ではないだろうか。(三雲)
- ・国道1号バイパスが岩根側にでき、国道1号は店舗が閉店し始めている。新興住宅も含めて次世代は外に出ていっている。人口の定着、産業開発も含めて考える必要がある。(三雲)
- ・今は保管されている古い道具などもこのままでは、いずれ失われてしまう。今から手を打つ必要がある。(石部)
- ・今からこれ以上失われないように対策をとるのか、もっと積極的に復元までして行くのか考える必要がある。(石部)
- ・次世代に良い景観を残すためには、まちづくり協議会の志の高い方が、まちおこしとして仕掛けるだけでなく、一般の住民も意識を高めて景観を守ることに配慮した生活をしていくことが重要ではないだろうか。(石部)
- ・まちづくり協議会としては、51番目の宿場町としての認識を一般の住民に広げていきたい。そうすることによって、もっと景観に配慮しようという声が上がってくる可能性が高まる。声が上がってくるのをただ待っているだけでなく、こちらから働き掛けていく。(石部)
- ・通過交通は全て最近整備された都市計画道路に流れている。既存の道路は交通量が少なくなっている一方で、歩道が十分に広い場所もあるので、例えばヨーロッパで見られるようにオープンカフェのようなことができないだろうかとも考える。(菩提寺)
- ・地域にある大木や遺跡、地蔵など身近な資源を地域の景観形成に取り入れるべき。コミュニティセンターを建てる際にも、菩提寺らしくお寺の形に建ててはどうかという意見もあった。予算の都合もあって実現できなかったが、そういった地域の個性に配慮する考え方が重要だと思う。(菩提寺)
- ・アンケートの結果を見ると、寺や自然景観を大事にしようという意向がはっきり出ている。しかし、既にいろんな形の家が建ってしまっている区域では、そうすることが難しいと考える。(菩提寺)

(4) 景観に関する行為の制限について

- ・ 厳しい行為制限によって、かえって暮らしにくくなったり、活力が削がれたりすることへの不安がある。
- ・ 行為の制限には、その制限内容と合わせ、導入の必要性を十分検討する必要がある。

○個別意見

- ・ 学識経験者は、ビジョン、持論を展開されるが、地元の精通度は低い。そういった外部の人の意見で規制を掛けることが目的となつてはいけない。(石部南)
- ・ 自分たちで自分たちの活動に規制を掛けて苦しくなることは避けたい。現行の県の条例の内容で10年程度の期限を設定して様子を見てはどうだろうか。(岩根)
- ・ まちづくり協議会で広告物を建てるにも逐一届出が必要になると手続きが煩雑になってしまう。(岩根)
- ・ 先進地を見ても、建て替えや増改築の際に一定の制限が掛かるため、地区全体の協力が得られなければならない。また、みんなでビジョンを描き、そういった地域に暮らしたいという意識で住民の想いが一致しなければ実現しない。(岩根)
- ・ 活動する人たちの喜びに結びつくものであることや、自主的な活動の自由度が求められる。まちづくり協議会の活動がやりやすい仕組みである必要がある。条例を守ることによって次第に調和のとれた景観ができるようになる。(岩根)
- ・ 水戸地区では文化財などの建造物もないので、規制などに馴染まないのではないだろうか。(水戸)
- ・ 長浜や彦根が市の発展のために規制をしている。しかし、例えば吉永のトンネル一つをとっても、「地元にとってみれば取り去ってしまった方が良い」とか、「そのままどこかに移築するのが良い」など様々な意見が出ている。トンネルのファンは結構いるが、平地化、安心・安全を目指す地元の立場としては良い方の方が良いとの考えもある。このように具体的に進めるときには、合意形成に時間が掛かるだろう。(三雲)
- ・ 条例で規制するということは、ある種のブレーキを掛けることにもなる。制限内容をどのようにするか、話し合いをしていかなければならない。(石部)
- ・ 県内の重点地区の事例を見ると、かなりレベルが高い。関などを見ても整っているが、住んでいる者は制限を受け入れなければならない。(石部)
- ・ 制限を掛ける場合には、補助金なども用意する必要がある。(石部)
- ・ 先日視察した岐阜県の中山道の峠の宿場では20軒以上の旅籠があり、景観づくりに積極的に取り組んでいたが、その地区は過疎地で、今後、家の建て替えなどが考えられない場所である。石部の場合はまだ若い人が住み続ける場所であり、あまり厳しく数値で制限するような条例にすることはやめて欲しい。(石

部)

- ・重点地区は既に決まっているのか。規制には、やはりメリハリが必要。ドイツやフランスは新市街地と旧市街地に分けて景観の規制をしている。(菩提寺)
- ・重点地区に指定して制限を掛ける場合には、改修費の一部を助成するなどの取り組みが必要。(菩提寺)

(5) 今後の進め方について

- ・まちづくり協議会の中には、これから景観づくりについて議論していく意向があるところも見受けられる。
- ・景観に関する行政からの情報発信、意見交換が求められている。
- ・これまでよりも厳しい行為の制限を導入する場合には、地域の理解を得ながら、慎重に進めていく必要になる。

○個別意見

- ・今回の情報交換のことを次回のまちづくり協議会の会議で報告し、意見交換することにしたい。協力できると面は協力していくべきと考える。(石部南)
- ・景観委員会の進捗状況などについて積極的に情報発信をして欲しい。(石部南)
- ・このような情報交換は、景観計画の策定に関する情報をいち早く入手できたり、意見交換をすることによって、地域の意向も反映したものにしていけるので良いことである。(岩根)
- ・景観計画の話は、安全環境部会で協議するなど、岩根の景観をみんなで考える場を設けるべきである。(岩根)
- ・地域住民と市の考えとのギャップを埋めていかないといけない。そうしなければ、市民の本音は上がって来ないのではないだろうか。(三雲)
- ・まちづくり協議会の役割、位置づけそのものが変わっていかねばならない。まちづくり協議会に対する区長会の理解も必要である。区長会への説明も全体で実施するのではなく、学区単位ではどうか。(三雲)
- ・まちづくり協議会としてもアンケートを実施して住民の意向を把握した上で検討していったらどうかと考えている。市全体のことを聞くのではなく、下田に絞ったアンケートをしてはどうかと思う。(下田)

(6) その他

○個別意見

- ・都市計画マスタープランができて数年経っているが、その後の進捗がない。地元からは何度も都市計画マスタープランに基づいた要望を行っているが、行政は何も対応していない。絵に描いたは良いが前に進まないのはいけない。(石部南)

- ・地域の要望に対して市があまり協力的でない。もっと地域と一緒に汗をかこうという姿勢を持ってほしい。(石部南)
- ・先進地を見ると湖南省とは随分差があるように感じる。(岩根)
- ・あまり目立たない看板では人に読んでもらえない。十二坊跡についての看板も少しは人目を惹くようでないといけないので質の高いデザインが求められる。(岩根)
- ・ウォーキングのガイドをされている方々は、他の人が知らないような歴史的な情報を持っている。アンケートやワークショップでは吸い上げられない情報をお持ちだと思う。(三雲)
- ・三雲駅裏の天保義民の碑は、生産森林組合と近隣の自治会で下草刈りなどの環境整備をしてくださっている。JR草津線側の斜面は木を切ろうと思うとボランティアでは危なく難しい。市には、財源がつかなくなったり、県との調整がつかないなどの理由で伐採してもらえない。昔は下から石碑が見えていた。景観まちづくりにまちづくり協議会にも応援して欲しいと言われても、まちづくり協議会には財源などが無い。(三雲)
- ・湖南省は、市内7つの地域ごとにまちづくりに取り組むことになっている。アンケートを見ると、三雲学区を三雲東小学校区と三雲小学校区に分けているが、一つの地域とすべきである。地元としてはそれで苦労している。甲西中学校校区で一つの区域として考えていただきたい。(三雲)
- ・例えば、祖父川を埋め立ててきれいにして欲しいという要望がある。県は埋立てすると言うが地権者との調整について市が進めることができていない。(下田)
- ・にぎり池公園の白鳥の小屋がつぶれかけているので撤去してはどうか。(下田)
- ・全体的に黒っぽい家が並んでいるのに、黄色や赤など原色の家が建ち始めたり、ネオンサインができれば雰囲気が崩れてくる。(石部)
- ・中郡橋の架け替えの際には、京都市の橋のように欄干や橋脚のデザインに配慮して石部宿へのアクセスを感じさせる景観づくりに努めて欲しい。中郡橋が一番古くて危険性が高い。(石部)
- ・市が行う照明の整備などの際にも、地域の景観に配慮すべきである。住民だけに配慮を求めてもいけない。(石部)
- ・商工会に、街路樹を植えてコミュニティ道路にするような基本計画、市内の各商店街の計画があったと思う。そういった計画内容も踏まえて検討していく必要があるのでは。(菩提寺)
- ・砂防の遺跡が残っているので再整備すると良いと考える。(菩提寺)

(別紙)

(湖南省 都市政策課)

湖南省『景観計画』の策定に向けた情報交換について

日 時 平成 24 年 12 月 日 ()
午前 時 分から
場 所 ○○まちづくりセンター

1. 湖南省の景観まちづくりへの取り組みについて

(1) 『景観計画』の策定について

(2) 景観まちづくりに関する市民の意向について

2. まちづくり協議会における“景観”に関する取り組みについて

(1) 現在の取り組み状況

(2) 今後の取り組み予定

(3) 景観まちづくりに関する要望等

3. その他